

平成29年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	事業構想学群
学群(学部)長名	風見正三

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	授業計画や事前・事後の学習方法の明確化を行う必要がある。
	理由	参考文献等の取り組みが効果的に運用されておらず、授業計画における具体化が必要。
②	課題	学類の特性を踏まえた履修モデルを明確化する必要である。
	理由	学類の科目特性に基づく科目選択や授業計画を実施できるガイドラインが必要。
③	課題	戦略的な授業運営の基礎となる効果的な学習支援システムの活用度を向上させる。
	理由	Moodle 等の効果的な学習支援システム実践が必要。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	講義の事前事後の学習の必要性や伝達方法について、SSC 学群 WG で分析を行い、教員間で情報共有し、教員連絡会議で実践を進めていく。
③	学類の定例会議にて、科目連携や履修モデルを検討し、学類ごとのガイドライン等を構築していく。その経過については、ミクロレベルのFD で共有し、それらの情報を学類のホームページやオープンキャンパス等の広報活動に反映させていく。
③	SSC 学群 WG が主体となり、今後必要となる授業管理メソッドを調査・分析し、その導入や実用に向けた教職員の情報共有を進めていく。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・オムニバス形式については、全体性が把握できるようにガイダンスを強化していく。
- ・事前学習の活性化につながるように、資料の事前配布を進めていく。
- ・授業時間外での学習が活発になるような適切な課題設定を進めていく。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

教員連絡会議にて授業改善計画の具体的な方法について情報共有を行うとともに、 commons の利用を含めたアクティブラーニングの導入効果について分析を行い、各学類の情報共有を進めていく。また、来年度から学類でのゼミ活動も始まることから、学類における複数教員指導体制の検討も進め、学生の学習達成度のモニタリングや情報共有を進めていく。